

底井野校区予約型乗合タクシー運行計画書案検討資料

1. 運行系統及び系統図：底井野校区路線 2系統（系統図：別紙参照）

(1) 垣生・下大隈系統

【下大隈公民館～上底井野～地域交流センター～J R 筑前垣生駅～**中間市役所～にしてつストア～通谷電停～中間市立病院**】 20.0 km（往路・復路 10.0 km）

起点：下大隈（主な経過地：J R 筑前垣生駅、通谷電停）

終点：中間市立病院

(2) 砂山・底井野系統

【砂山7組～中底井野～地域交流センター～J R 筑前垣生駅～**中間市役所～にしてつストア～通谷電停～中間市立病院**】 20.6 km（往路・復路 10.3 km）

起点：砂山（主な経過地：J R 筑前垣生駅、通谷電停）

終点：中間市立病院

◆目的地【参照：底井野校区新しい地域公共交通の導入に向けたアンケート調査報告書】

自治会名	サンプル数	イオンショッ パーズモー ルなかま (旧ダイエー)	市立病院	新中間病院	その他 医療機関	ハピネス なかま	銀行	なかまハー モニ－ホー ル
垣生町	296	68.6%	12.2%	4.7%	16.9%	5.4%	43.2%	10.8%
砂山	102	71.6%	16.7%	6.9%	30.4%	5.9%	45.1%	5.9%
下大隈	131	74.0%	20.6%	9.9%	14.5%	3.8%	38.9%	9.9%
上底井野	324	79.3%	32.1%	7.7%	22.5%	4.3%	28.7%	5.2%
中底井野	70	72.9%	20.0%	4.3%	17.1%	5.7%	27.1%	8.6%
校区全体	923	① 73.8%	⑤ 21.5%	6.7%	20.0%	4.9%	② 36.5%	8.0%

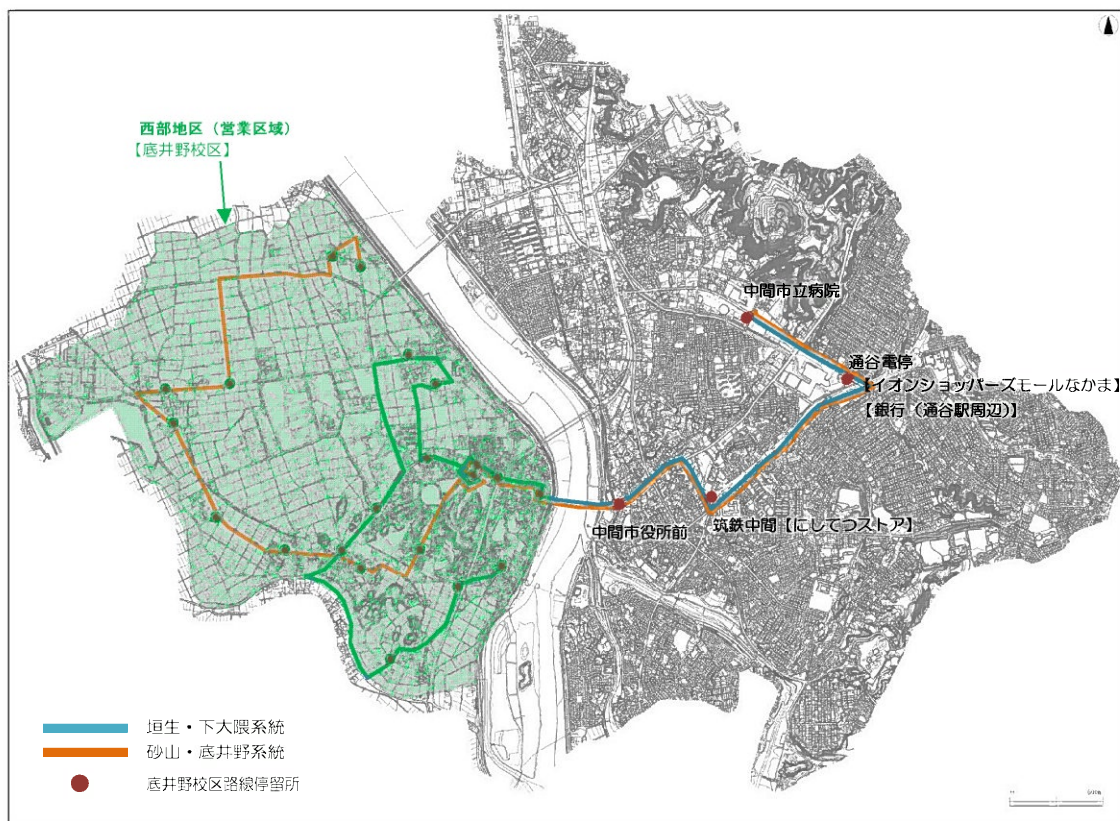
自治会名	中央公民 館	体育文化 センター	にしてつス トア	JA北九中 間支店	市役所	その他	無回答
垣生町	3.7%	3.4%	18.6%	5.1%	28.7%	6.1%	19.9%
砂山	5.9%	0.0%	10.8%	22.5%	45.1%	7.8%	10.8%
下大隈	7.6%	2.3%	23.7%	10.7%	26.0%	6.9%	13.7%
上底井野	2.5%	0.6%	36.7%	13.3%	20.7%	17.9%	6.5%
中底井野	4.3%	4.3%	10.0%	24.3%	42.9%	10.0%	7.1%
校区全体	4.1%	2.0%	④ 24.2%	12.1%	③ 28.4%	10.8%	12.4%

★東部地域の目的地については、アンケート調査結果より上位5つを設定。

①イオンショッパーズモールなかま ②銀行（通谷駅周辺） ③市役所 ④にしてつストア ⑤市立病院

2. 営業区域

西部地区：底井野校区全域



【新しい地域公共交通を検討する基本方針】

1. 既存の公共交通機関の利用促進
2. 継続性・経済性・安全性の確保
3. 高所地区・交通不便地区住民の移動手段の確保
4. 地域住民からの要望

★停留所での乗降について

西部地区：各停留所での乗降可とする。

西部地区には、広域移動を担うJR筑豊本線とドア・ツウ・ドアのきめ細やかな運行を行うタクシー事業があり、この既存の地域公共交通と役割分担を行うことで、利用者によりよい交通サービスを提供することが可能である。

東部地区（4箇所の停留所）：各停留所での乗降を制限する。

①西部地区から東部地区に向かう行き便【中間市役所→中間市立病院間】

中間市役所から中間市立病院までの各停留所では、乗車することができず、降車のみとする。

②東部地区から西部地区に向かう帰りの便【中間市立病院→中間市役所間】

中間市立病院から中間市役所までの各停留所では、降車することができず、乗車のみとする。

今回の予約型乗合タクシーは、西部地区と東部地区をつなぐ新しい移動手段の環境整備を行うことで、両地域の交流を促進することを目的としており、東部地区内の移動については、新しい地域公共交通を検討する基本方針に基づき、既存の公共交通機関の利用促進に努める。

3. 運行回数・運行時間帯

◆主な外出先【参照：底井野校区新しい地域公共交通導入に向けたアンケート調査報告書】

	サンプル数	職場	学校	買い物	病院	趣味習い事	その他	無回答
全体	2,054	36.4%	7.2%	42.2%	27.9%	10.3%	7.9%	6.4%
男性計	899	47.3%	7.3%	31.6%	28.0%	10.1%	7.1%	3.1%
女性計	1,031	31.2%	8.0%	56.5%	31.1%	11.7%	9.2%	2.9%

◆外出先の頻度

	サンプル数	職場	学校	買い物	病院	趣味習い事	その他	無回答
週5回以上	933	68.3%	13.8%	24.4%	12.9%	8.5%	7.1%	0.6%
週3～4回	426	16.9%	1.9%	70.2%	33.3%	16.7%	11.3%	1.6%
週1～2回	360	4.7%	2.2%	73.1%	53.9%	13.9%	7.5%	2.8%
月に1回～2回	134	4.5%	0.7%	54.5%	71.6%	6.7%	5.2%	4.5%
ほとんど外出しない	27	3.7%	3.7%	11.1%	37.0%	3.7%	14.8%	33.3%

◆新しい地域公共交通を利用するまたは利用しない世帯の現在の外出頻度【通谷駅周辺まで運行】

		サンプル数	週5回以上	週3～4回	週1～2回	月に1～2回	ほとんど外出をしない	無回答
校区全体	利用する	426	23.5%	23.2%	36.4%	13.1%	0.5%	3.3%
	利用しない	378	53.2%	25.7%	14.0%	4.5%	0.5%	2.1%

◆乗車時間帯別

		午 前				
自治会名	サンプル数	7時～8時	8時～9時	9時～10時	10時～11時	11時～12時
校区全体	923	19.9%	33.3%	50.7%	50.1%	24.7%

		午 後					無回答
自治会名	12時～13時	13時～14時	14時～15時	15時～16時	16時～17時	17時～18時	無回答
校区全体	19.8%	41.4%	37.1%	30.7%	21.7%	19.9%	16.4%

★運行回数、運行時間帯について

運行回数	4本/日（往復を1本）を週4日（月・火・水・金曜日）、1系統ごと運行。 ※市内にある多くの病院が休診となる木曜日は運休。 ①垣生・下大隈系統は月、水曜日の運行。②砂山・底井野系統は火、金曜日の運行。
運行時間帯	（午前）8時台～12時まで 4便 （午後）13時台～17時まで 4便 ※平日が祝日でも運行。ただし、年末年始（12月29日から1月3日まで）及びお盆（8月13日から8月15日まで）は運休。

4. 使用車両

使用車両	10人乗りワゴンタイプ	5人乗りセダンタイプ
規格	【参考】 トヨタハイエース 全長 4,840 mm 全幅 1,880 mm 全高 2,105 mm ホイルベース 2,570 mm 車両重量 2,470 kg 最小回転半径 5.2m 燃料消費率（カタログ数値）8.6 km/L ※ガソリン車での数値を掲載	【参考】 トヨタカローラアクシオ 全長 4,360 mm 全幅 1,695 mm 全高 1,460 mm ホイルベース 2,600 mm 車両重量 1,090 kg 最小回転半径 4.9m 燃料消費率（カタログ数値）20.0 km/L ※ガソリン車での数値を掲載
定員	9人（運転手を除く）	4人（運転手を除く）
特徴	① 車両の設備投資が必要 ② 代替え車両の必要性 ③ 集落内の狭隘な道路は運行困難 ④ 運行経費がセダンタイプに比べ割高（燃料費、整備費など） ⑤ 車高が高いため、乗り降りが困難 ⑥ 乗客の乗り残しの可能性が低い ⑦ 車内空間が広い ⑧ 車両のラッピングにより、既存の公共交通と判別が容易	① 車両の設備投資が不要 ② 既存のタクシー車両の活用が可能 ③ 集落内の狭隘な道路も運行可能 ④ 運行経費がワゴンタイプに比べ割安（燃料費、整備費など） ⑤ 車高が低いため、乗り降りが容易 ⑥ 乗客の乗り残しの可能性が高い ⑦ 車内空間が狭い ⑧ 既存のタクシーとの判別が困難

【需要予測】

- ① 利用すると回答した世帯 426世帯（※便宜上、426人が利用すると仮定）
- ② 426人のうち、週1～2回外出している方は、約4割。426人×0.4≒171人（171/日）
週5回以上外出されている方のほとんどが、職場への通勤そして自家用車使用。
買い物、病院への通院の方を対象とするのであれば、週1～2回外出の方が該当。
- ③ 171人のうち、1日の最大の乗車時間帯は、9時～10時の約51%。171人×0.51≒88人
- ④ 必要な方、あればいい方のうち、必要な方は、約1割と仮定。88人×0.1≒9人
→1便あたりの最大の利用者数は、9人と推定。

車両については、10人乗りワゴン車はもちろんであるが、5人乗りセダンタイプの既存のタクシー車両であっても、市内に営業所がある利点から追走による予備車両の導入で需要を満たすことが可能である。

★使用車両について

運行車両 5人乗りセダンタイプ

事業に必要な常用車両 1台 (5人乗りセダンタイプ)

追走車両及び故障対応のための予備車両 3台 (5人乗りセダンタイプ) 計 4台

※市が運行委託する事業者が保有するタクシー車両を、タクシー事業と併用して使用する。

5. 運賃

◆買い物

自治会名	運賃	週1回	週2回	週3回	週4回	週5回以上	利用しない	無回答
校区全体	150円	13.4%	21.1%	24.3%	8.1%	3.9%	10.0%	19.2%
	200円	14.3%	23.8%	16.3%	4.2%	1.1%	14.5%	25.8%
	250円	13.1%	18.6%	8.2%	1.5%	0.8%	26.7%	31.1%
	300円	16.4%	15.2%	6.0%	1.3%	0.7%	30.2%	30.3%

◆病院

自治会名	運賃	週1回	週2回	週3回	週4回	週5回以上	利用しない	無回答
校区全体	150円	31.1%	12.4%	14.1%	5.3%	2.7%	11.1%	23.4%
	200円	27.3%	13.2%	10.0%	2.5%	0.9%	16.6%	29.6%
	250円	23.9%	10.1%	5.3%	1.0%	0.4%	25.5%	33.8%
	300円	25.4%	8.1%	4.3%	0.4%	0.4%	28.3%	33.0%

★運賃について

今回のアンケート結果より、利用する方の多くが、現在週1回～2回外出していると回答している。このことから、運賃については、複数回利用していただくためにも、200円以下にすることが望ましい。

①運賃

定額 200円 (中学生以上)、100円 (障がい者・小学生)、無料 (小学生未満)

②回数券

100円券が11枚綴りを1,000円にて販売。

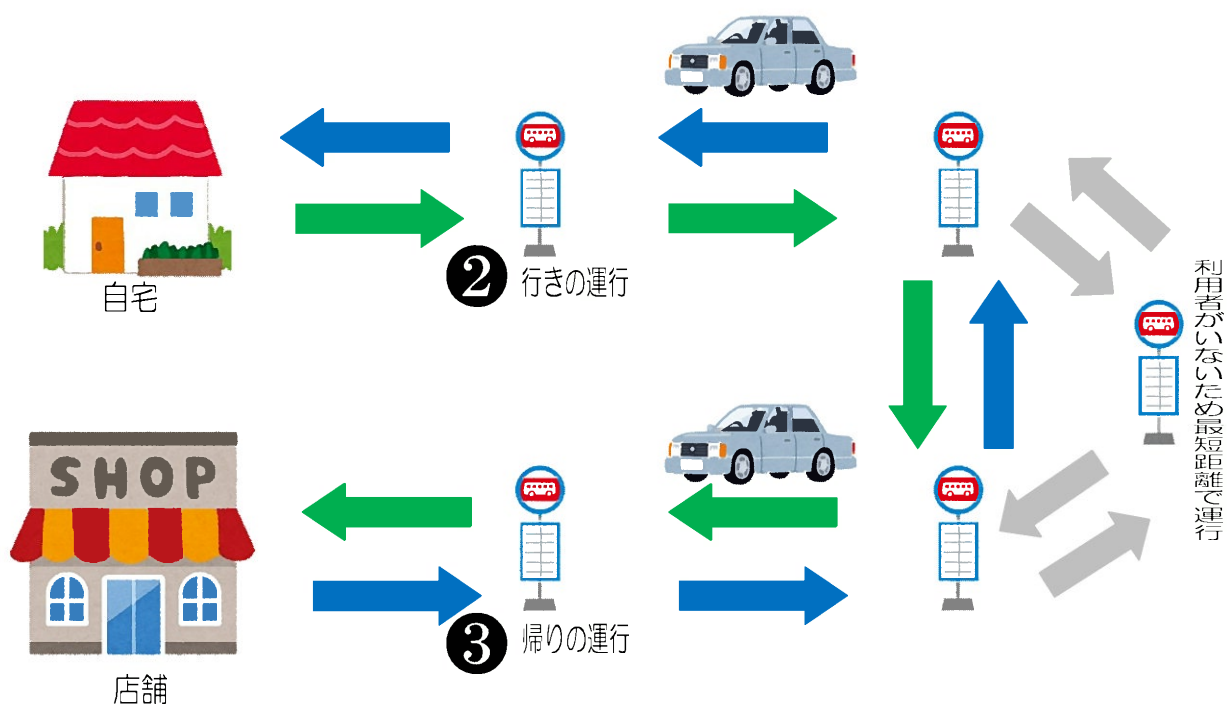
6. 利用方法

◆底井野校区コミュニティバス利用方法イメージ図

【利用方法例：買い物に行く場合】



- ① 利用するときは、まず、運行事業者（営業所）に「**●●停留所から●●時●●分の便に乗ります。**」と事前に電話連絡をする。また、帰りも利用する場合は、「**●●停留所から●●時●●分の便に乗ります。**」と伝える。



- ② 電話予約した●●時●●分に自宅近くの停留所から乗って、お店の近くの停留所で運賃を支払って降りる。
利用予約のない停留所は通過して、最短距離で運行する。
- ③ 買い物からの帰りは、お店の近くの停留所から電話予約した●●時●●分に乗って、自宅近くの停留所で運賃を支払って降りる。
帰りの場合も、利用予約のない停留所は通過する。

- **運行** 平日のみ（木曜日は運休）。※平日が祝日の場合は、運行。
1日8便（行き帰り合せて）
- **予約** 運行日の2日前から各便の出発時間の1時間前まで。ただし、第1便目は前日の17時まで。
- **運賃** 定額200円（中学生以上）、100円（障がい者、小学生）、無料（小学生未満）
回数券1,000円（100円券×11枚綴り）
- **乗車、降車ルール**
 行きの便の東部地区各停留所（市役所から市立病院の間）では、降りるのみ。
 また、帰りの便の東部地区各停留所（市立病院から市役所の間）では、乗ることしかできません。
 東部地区内では、西鉄バス、フレンドリー号、筑豊電気鉄道等の公共交通の利用を促進する。
- **その他**
 利用者の事前登録は不要とし、どなたでも予約専用電話に乗車場所の停留所と利用時刻を連絡することで利用できることとする。
 予約専用電話番号は、運営主体と運行主体が協議して、利用者にわかりやすい方法を整え、言語障がい者や聴覚障がい者などが利用できるようFAXによる受付体制を整えることとする。

7. 運行経費（概算）

- | | |
|--------------------------|--------------------------------------|
| (1) 運行車両 | 5人乗りセダンタイプ |
| (2) 運行頻度（1つのバス停にバスが来る回数） | 8便/日 |
| (3) 本数（全体の運行本数） | 4本/日、週4日（203日） |
| (4) 運行系統キロ程 | ①垣生・下大隈系統 20.0km
②砂山・底井野系統 20.6km |
| (5) 運行条件 | |

5人乗りセダンタイプ車両運行台数	1台
5人乗りセダンタイプ車両予備台数	3台
5人乗りセダンタイプ車両年間走行キロ（追走運行を除く）	17,864 km/台
乗務員雇用者数	1人
乗務員数	1 仕業
停留所新設箇所数	25箇所

(6) 初期投資（概算）

停留所設置費用	3,000千円
小計	3,000千円

(7) 運行経費 (概算) ※公定幅運賃より試算

運行経費	4,986 千円	①
追走経費	812 千円	
小計	5,798 千円	

※運行経費 (5人乗りセダンタイプの場合) : 670 円/1.6 km 80 円/322m の公定幅運賃にて試算 (3,070 円/11 km)、時間制運賃 2,000 円/30 分

※追走経費について、運行日数の 1/2 をセダンタイプ車両 1 台にて追走する場合を想定し、1 日 4 本運行する場合は、2 時間追走を行うとする。

※運行経費の概算については、運行系統うち、長い方の系統 (砂山・底井野系統 往復 20.6 km 【片道 10.3 km】) を参照し、片道約 11 km から年間走行キロを 17,864 km (追走運行を除く) を算出し、上述の公定幅運賃から運行経費の試算及びキロ当たりの運行経費を算出している。

(8) 運行収入 (200 円) ※追走運行を除く

運行収入	325 千円	②
------	--------	---

※運賃収入については、1 本【往復を 1 本】あたり平均利用者数を 2 人と想定

(9) 運行経費収支差 ※収支差③=運行経費①-運行収入②

収支差	4,661 千円	③
-----	----------	---

(10) キロ当たり運行経費 ※追走運行を除く

キロ当たり運行経費	279.11 円/km
-----------	-------------